



UBE未来新聞

届け!! 私達の想い!!

2022年9月16日金曜日
発行(一社)宇部青年会議所
〒755-0043
山口県宇部市相生町8-1
宇部興産ビル6F
事務局TEL:0836-33-2838
E-mail:mail@ubejc.com

紙面目次

P4	P3	P2	P1
夢の溢れる宇部に 宇部市改造計画	未来へ繋げる宇部	フロンティア新聞 届け!! 私達の想い!!	高校生密着番記者記録

高校生が約半年間
沢山考えて 沢山悩んで
宇部市の未来について
『本気で』向き合った新聞です
皆さん是非読んでください

高校生密着番記者記録

宇部フロンティア大学付属 香川高等学校
香川高等学校では、学生主体で、校内へのアンケート調査や新聞作成を行いました。最初は、我々宇部青年会議所の会員を含め、全員がぎこちなくミスや些細な事につまずく場面もありました。しかし、時間が経つにつれて学生達の笑みや活発な意見も増えて、我々もこんな意見があるのかと驚かされてばかりでした。参加してくれた学生の人数が5名と他の高校に比べれば少なかつたが、新聞作成に積極的に取り組んでくれたと思います。参加してくれた学生には一つでも多くの事を学び、考えてほしいと思っていました。その思いに呼応するよう、学生たちは「どんな事が宇部市の発展に繋がるのだろうか」と日々頭を悩ませながら、議論を繰り返して、やっとの思いでこの新聞が出来上がりました。
新聞作成を通じて、学生達は大きく成長してくれ、新聞作成をする前後では、何倍にも大きく見えるようになり、次の世代のリーダーの一人として社会に羽ばたいてもらいたいです。

山口県立 宇部工業高等学校
宇部工業高等学校では、生徒会のメンバーとUBE未来新聞を作成しました。宇部工業の生徒たちは、総じて挨拶が素晴らしく、私たちも学校に行く度に気持ちのいい挨拶をしてもらい、清々しい気持ちになりました。最初の顔合わせの時から新聞が完成するまで、その姿勢は一貫しており、私たちもとても感心させられました。新聞作成に際しては、最初は生徒たちもぎこちなく議論が進んでいかなかったという場面もありました。しかし日を追うごとに生徒たちが様々な意見を出し合ってくれ、新聞作成の会議を主体的に行ってくれるようになっていきました。夏休みの期間も学校に出てきて遅くまで新聞作成してくれました。「オシャレな記事ではなくても中身のあるものにした」と熱い志も持ち続けていきました。
私たちも生徒たちと一緒に青春の時間を共有させて頂き、とても充実した時間を過ごすことができました。宇部工業高等学校のスローガンである「誠と熱」を見事に表現した新聞となりましたので、ぜひ多くの方々にご覧頂けると幸いです。

慶進高等学校
慶進高等学校では、約半年間にわたり、新聞作成を行ってきました。参加してくれた生徒の人数も10名以上と多く、当初から新聞に自分たちの意見を載せることへの意欲を感じました。新聞作成期間中は、合間に文化祭や試験など、通常の学校行事もありましたが、手を抜くことなく、両立しながら取り組んでくれました。
新聞作成では、高校生ならではの視点で考え、高校生としての意見を持ってもらうことを意識してもらいました。生徒たちは、今まで、当たり前のように生活している「宇部市」という存在について考えたことはなかったと思います。しかし、「この新聞作成をきっかけにして、改めて自分たちの目で「宇部市」を見つめ直し、その未来を考えてもらいました。」この新聞は、生徒たちなりに考えたまちの望ましい未来が集約されています。
生徒たちは、今後、ほとんどが大学に進学するように聞いています。その中には、県外の大学に進学する人も県内にとどまる人もいます。しかし、どこに行っても「宇部市」の未来を考え続けてほしいと思っています。そして私たち自身が、生徒たちが故郷に戻ってきたとき、生活したいと思えるようなまちの基盤をしっかりと作っていかねばならないと、この事業を通じて、強く思っていました。

新入会員募集中
「明るい豊かな社会」の実現を目指す青年会議所運動の基本の一つには、地域の産業を担う青年経済人が人的ネットワークを広げ、さらには青年会議所の各種事業を通じて切磋琢磨し、厳しい経済情勢のなかにあっても力強いリーダーシップを発揮できる「人材」を「開発」することにあります。「一人でも多くの、志を高く持つ仲間に出会いたい!」との一念で会員拡大事業に取り組みしております。メンバー一同、共に夢を語り合える仲間として、青年会議所の扉を開いて頂けることをお待ち申し上げます。
【入会対象年齢20〜37歳】
一般社団法人宇部青年会議所
事務局
TEL:08361332838
受付時間:10時〜16時(土日祝を除く)

市民の皆様の声をお聞かせください!

こちらの二次元コードから
アンケートフォームへ
お進みください。



アンケートは
9月30日まで!

次の世代のために是非ご意見・ご感想を!!



フロンティア新聞 ～私達が開拓する未来～

宇部市は彫刻のまち、学ぶところはZERO！？

芸術を学ぶ場所が少ない

宇部市は彫刻のまちで有名だ。UBEビエンナーレ(現代日本彫刻展)は2年に1度開催され有名な彫刻家たちの作品が展示されている。まち全体が美術館と言っているほど、芸術が溢れ素晴らしいのに、宇部市で美術を専門的に学べる場所は少ない。これでは、本当の意味で美術のまち、彫刻のまちと言えるであろうか。

現在宇部市で美術を学べる場所の一つに「宇部美術研究所」があるが、それ以外、目ぼしい所がないのが現状だ。もっと身近に美術の基礎を学べる場を作る必要がある。子どもが身近に美術を学べる場所があれば、未来の選択肢も増えるだろう。美術を学ぶ場所がなかった事で、その道を諦めていた人も宇部市に学ぶ場所を増やせば、自分のやりたい将来を自分の目で見て、触れて決める事ができるはずだ。

学ぶ場所の質の向上を！

現在、山口県には山口学芸大学がある。大学の現在の在籍人数は307人である。しかし、他県にある日本大学芸術学部や東京藝術大学の在籍人数は3,832人、3,302人と山口学芸大学とは桁違いである。なぜ、人数の差が生まれるのだろうか。一番の理由としては学べるものの質の違いだと思われる。例に上げた3つの大学では、美術について専門的に学ぶ事ができ、その中でも、都内の大学はそれをもっと専門的に学ぶことができる。

宇部市には、美術大学がない。美術を学びたい人は、専門的な事を学ぶために宇部市や山口県から出ていってしまうかもしれない。その事も宇部市の人口減少の要因の一つかもしれない。だからこそ、宇部市に専門的に学ぶ学校をつくる必要がある。そうすれば、いつか宇部市から有名なデザイナーや彫刻家が生まれて宇部市の活性化にも繋がるのではないだろうか。



ときわ公園UBEビエンナーレ彫刻の丘『蟻の城』

「彫刻のまち」から「彫刻家を生むまち」へと街全体が成長すれば人口増加に繋がり、様々な年代の人にも利益があるだろう。100年先も宇部市は彫刻でいっぱいの活気あふれる素敵なまちであり続けてほしい。



写真提供：山口宇部経済新聞

マルシェで地域を賑やかに！！

ここ数年、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、度重なる外出自粛要請や、営業規制が出された。外出自粛の影響はイベントや観光、修学旅行にも影響を及ぼし、営業規制は商業施設だけでなく、地域商店に大きな損失を出した。市内の新型コロナウイルスによる影響に関する事業者アンケートでは、飲食店の約46%が売上・受注の停滞や不振を挙げ、約20%が前年度の売上の半分以下と回答している。そのような中、地域経済の活性化や、すべての人々が楽しむことのできるイベントを提案したい。市内の利用可能な広い土地(長期休暇中の学校の校庭、商業施設の駐車場など)を活用して、地域の商店や学生が参加できるマルシェやワークショップを開催するのはどうだろうか。

2018年3月より、宇部市東吉部では吉部小学校の旧校舎を利用した「ナチュラルフリマルシェ」(現在：ほたるマルシェ～吉部deナイト～)が開かれ、そこでは、地域の飲食店や雑貨店の出店、地元高校吹奏楽部による演奏会が行われた。このような場を増やせば、幅広い年齢層との地域交流にも繋がる。香川高校で行った校内アンケートでは、マルシェの開催の案に対して「楽しそう」「最近祭りが無い」「活気が出る」などの意見が多かった事からも、マルシェなどの地域交流の場の必要性が伺える。社会見学や修学旅行が、感染対策により中止や縮小になってしまった昨今、新たに学生たちの思い出作りにもなるだろう。

編集者 ・ 木下雅也(リーダー) ・ 三浦一葉(サブリーダー) ・ 藤本晃輔(書記) ・ 川俣鷹雄 ・ 物部恵里佳

次回 街灯×エヴァンゲリオン 予想 ～夜間犯罪を抑制する街づくり～ 宇部を守れ、エヴァンゲリオン！！

宇部市の1年間の犯罪件数は1,920件(2020年調べ)、人口に対する犯罪発生率は1.16%、全国平均0.99%から見ても全国的に治安が悪い地域であることがわかる。中でも犯罪件数が夜間に集中しており、その理由として街灯が少なく暗所が多い事が1つの要因と考えられる。宇部市民がより安全で過ごしやすい街になるためには、街灯数を増やすことが必要だ。街灯を増やすにあたって、ただ増やすだけなら、他の都市でもできる。やるからには「宇部市ならではの街灯を設置したい！」そこで街灯のデザインを宇部市出身の庵野秀明監督の作品「エヴァンゲリオン」をモチーフにしてはどうだろうか。安全性が高まると同時に、街おこしにも繋がるはずだ。

その地に関わりのあるアニメなどを題材にした街おこしは他県にもある。例えば、鳥取県境港市の商店街には「水木しげるロード」というものがあり、鳥取県出身で「ゲゲゲの鬼太郎」の作者水木しげるさんの名を冠したものである。この「水木しげるロード」ができてから境港市の年間観光客が約20万人から約300万まで伸びたと言う事例がある。今回の案が実現できれば、宇部市に多くの観光客が訪れるであろう。昨年公開された「シン・エヴァンゲリオン劇場版:Ⅱ」では興行収入が約102億円、観客動員数約655万人に上った。ファンの中には「エヴァンゲリオン」の聖地を見に来たついでに所縁の地を観光する人もおり、今後の更なる宇部市の活性化が期待される。



宇部市中心地の街灯



参考画像『エヴァンゲリオン新劇場版:破』 (c) カラー

未来へ繋げる宇部

公園の美化と充実を! 『小野茶ウォール塗料』の提案

現在の宇部市の現状について校内でアンケートを取ったところ、『トイレなどの公共施設が汚い』という意見が多数挙がった。そこで、現地に赴き調査を行った。まず、目についたのが手洗い場の汚さだ。石鹸やハンドソープは無く洗面台に苔が生えており、衛生的に良くない印象だ。トイレの中は、手洗い場同様に衛生的に悪く、何よりニオイがひどかった。この現状を改善すべく私達が提案するのは、宇部市の特産品である小野茶を使った壁塗料「小野茶ウォール塗料」というものを作る事である。

小野茶ウォール塗料とは、緑茶成分を塗料に配合したもので、効果としては、緑茶に含まれるポリフェノールの一種「茶カテキン」によって、ニオイのもととなる成分と結合して中和し、腐敗臭のもととなる雑菌を殺菌・抗菌することで、消臭効

果が期待できるというものである。

現在、小野茶の生産現場で問題となっている生産者の高齢化・低迷するお茶需要など問題は多い。宇部市の特産品である小野茶を使用した「小野茶ウォール塗料」を開発して公衆トイレなどに取り入れることによって、需要が高まり、経済的な向上、又は経営の継承や担い手確保にも一役買う事ができるのではないだろうか。



参考画像小野茶畑の風景 ©株式会社山口茶業



雑草が生え切り株が残された公園(宇部市内)

また、公園はあっても十分に運動できるスペースが少なく、あったとしても設備が不十分という意見もあった。写真は宇部市内にある公園である。見ての通り雑草が生え、切り株が残っており整備があまりされていない状態だ。これで、公園に行きたいとは思わないのではないだろうか。現在日本は豊かな生活背景により、子どもから大人まで運動不足ということがわかっている。そこで私たちは老若男女が気軽に

来ることができる施設を増やしたいと考えた。そして私たちは宇部市にある公園を調べた。どの公園も広さはある、遊具は2~3つほど設置されていた。しかし、写真のように雑草などが生えており整備されていない公園がたくさんあった。公園を調べてみると気付いた事があった。それは、公園を利用している人は小学生以下がほとんどだということだ。つまり、中高生以上はあまり利用していないことがわかった。中高生以上の利用を増やすためには多目的広場やスポーツジムの要素を取り入れ、今ある施設の改善をすることによって利用者数を増やすことができるのではないだろうか。これにより、運動不足を改善し、中高生は運動を行う事で体づくりができ、社会人から高齢者の方にも生活習慣病の予防や健康な体を維持することができるのではないだろうか。

宇部市の新交通システム「BRT」

実際に宇部市に住んでいる方々の意見を聞くと、現在宇部市の電車本数は約一時間に一本程度ということもあり、本数が少ないという意見が多かった。そこで私たちは交通の便を改善する為に電車に頼るだけではなくバスを全面的に活用したバス・ラピッド・トランジット(以降、BRT)を提案する。電車に比べてバスは停車駅の柔軟な設置や、線路をバス専用道に変えることにより利便性が向上する。そうなると利用者も増え、本数も増やすことが可能ではないかと考えた。更に、未来のことを考えるとBRTを導入することによって宇部市にとってのメリットが2つある。

1つ目は災害が起こった際にバスは電車よりも比較的早く運行を開始できることだ。宇部市は、南側の平野に人口が集中している、そのため地震や台風の影響を南側に受けると被害が大きくなる、また地震に関しては30年以上に80%の確率で南海トラフ地震が起こると言われている。このような大きい災害の時もいち早く住民の移動手段として活用できる。

2つ目は、線路とは違い経路地を変えられる柔軟さがあることだ。例えば、これからの発展によってできる病院や公園などの施設が出来たときその施設を経由することができる。これによってバスとその施設の利用者がどちらも増える利点がある。さらに施設の利用を円滑にすることができる為、相乗効果が生まれこれからの宇部市が更に発展していくと考えた。

「BRT」導入のメリット

- ①電車に比べてバスは、地震津波発生も可能なところまで自力走行することで、避難支援が可能。
- ②災害時、電車は線路復旧に時間がかかるが、バスは道路を活用すれば早期の運航開始が可能である。
- ③鉄道路線をバス専用道として活用することで利便性が向上する。
- ④まちづくりの各段階にあわせたルート設定やバス停の増設等の柔軟な対応が行える。
- ⑤運行頻度を電車より高めることが出来る。



宇部市勉強計画!

宇部市には勉強スペースが必要だ。勉強スペースが増えることによって宇部市全体の学力アップが期待でき、私たちが掲げる宇部市の未来に繋がるからだ。学校でアンケートを実施した結果、過半数の生徒が勉強スペースが欲しいと回答した。このことから今の高校生に求められているのは、勉強スペースだということが分かる。家では集中して勉強が出来ない生徒が沢山いる中、勉強スペースが少ないため困っている生徒がいるのが現状だ。宇部工業高校の近くの勉強スペースは、ウエスタまるきや図書館などがあるが、ウエスタまるきは席の数が少なく座る場所がすぐになくなってしまふ。図書館では、高校生だけでなく子どもや社会人の方々も利用するので席の数は多いが、まるき同様すぐに座る席が無くなってしまふ。そして、年齢の違う人達が集まるので中学生などは高校生など年上の人がいると気になって勉強に集中出来ないことがある。なので、私たちが提案する勉強スペースは中学生や高校生など年代で区切り、年代別専用勉強スペースを提案する。

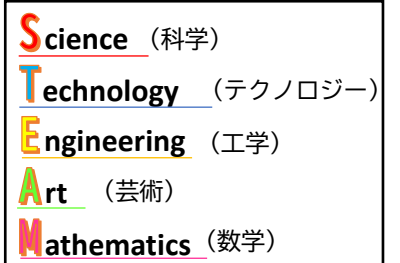
調べている中で、勉強スペースがある場所は国道190号線沿いに集中していることが分かった。そうなると、距離的に自転車通学の生徒は利用可能だが徒歩通学の生徒には距離があることが課題だと考える。

さらに、現在大学の図書館は18歳以上でないと利用者登録ができないことをご存知だろうか。年齢の制限が解除されれば、より多くの年齢層の人たちが勉強することが出来、これからの宇部市の基礎学力の向上に繋がるのではないだろうか。

モノ作りからのまちおこし!?

現在デジタル活用の教育論として「STEAM教育」をご存知だろうか。右図の解説のように理数教育に創造性教育を加えた教育理念のことで、分野を横断し学びの幅を広げる教育のことだ。宇部工業高校では3Dプリンターの使い方とプログラムを同時に学ぶことができる為、通常の授業よりも学びの幅が広い。さらに同時に学ぶことで「作る力」「考える力」の両方を養うことができる為、3Dプリンターは重要だと考えた。そこで、STEAM教育の普及として宇部市内の各高校に3Dプリンターを1台導入してみようだろうか。そうすることによって「作る力」「考える力」を持った様々な分野に精通する生徒を輩出することができるのではないだろうか。

また、宇部市内のごみで3Dプリンターの原料となる樹脂を作ってみようだろうか。その樹脂で宇部市キャッチコピー(緑と花と彫刻のまち)にもあるように緑化のためのプランターを作ったり、花瓶を作ったりすることで緑化が進む。さらに、3Dプリンターを使った「花瓶大会」を行ったり、自分だけのオリジナル花瓶を作ってみようだろうか。花瓶のデザインをみんなと競えばたくさんのお出が生まれる。3Dプリンターはデータがあれば作製出来る為、県外からでも参加できる。そうなることで、宇部市以外からの交流のきっかけとなり、今後の宇部市が最先端に行く市になる事も可能だと考えた。



STEAM教育について



3Dプリンター(宇部工業高校内)

